

日本を知る良い機会に、インターン参加の留学生が手記

留学生、アナスタシア・ザコロハ

ロシア・バイカル湖の畔にあるイルクーツク市のイルクーツク国立言語大学から1年間の予定で茨城大学に留学中のアナスタシア・ザコロハです。ゼミの友人や国際学寮の仲間たちは、ロシア語での愛称のナスチャと呼んでくれます。

所属する人文学部のゼミの古賀先生のアドバイスもあってこの3月の春休み期間中に、2日間のインターンシップに参加しました。留学生が3月のインターンシップに参加するのは茨大として初めてのようです。

就職支援センターの菊池美也子コーディネーターのご紹介で、3月25日から26日まで茨城県内で地域情報誌や求人情報誌、女性をターゲットとした情報誌などを手掛ける広告代理店の日宣メディックス「いばナビビューティーチーム」に所属し、情報誌の取材、編集のほか広告PRの仕方などを学びました。

初日の25日早朝、菊池さんと茨大正門の前で会い、本社へ向かいました。到着後、エネルギッシュな上金健一社長と短時間面談し、チームのオフィスへ。担当の草間優也さんや人文学部出身のOG澤山あゆみさんたちから、日宣メディックスの会社概要のほかインターンシップの進め方などについて説明を受けました。

情報誌の編集が初めての私は、初めてのことばかりで、情報誌の読者層や発行部数や編集上の注意点などについて質問しました。時間が経つのは早いもので、そうしたやりとりが一段落したので、時計を見たら正午を過ぎていました。会社を出て、草間さんたちと駅近くの Pasta 屋で昼食をとりました。



午後は、取材の勉強です。情報誌に掲載する広告用の写真撮影に同行しました。草間さんのクライアントである写真スタジオさんを訪問。情報誌に掲載する写真で、どの洋服を着用して撮影するかとの打ち合わせをしました。スタジオには、子供向けの洋服と和服がいっぱいあり、この中から着る洋服を決め、撮影するわけです。

会社へ帰ると終業時間を過ぎていました。水戸駅北口でバスに乗り、帰宅しました。翌日聞いたら、草間さんは、本社で午後 9 時まで残業をしていたようです。

2 日目の 26 日も情報誌の編集の勉強をしました。茨大 OG の澤山さんから情報誌『いばナビ Beauty』の編集のいろはを教わりました。情報誌の広告スペースをクライアントに買ってもらい、各クライアントと掲載内容を打ち合わせをしてひとつひとつの広告を作っているそうです。驚いたのは、情報誌に掲載する広告の写真や文章等の内容を、少ない人数で手作りしていることでした。撮影はプロのカメラマンにお願いすることもあるようです。



広告では、クライアントの提供するサービス・情報を、どのように読者にアピールして情報誌へ掲載するかがとても重要です。掲載の場合には、広告スペースのサイズによって価格が異なります。大きい広告スペースのほうが目立つため、1 ページの値段と半ページの値段が違うわけです。

情報誌『いばナビ Beauty』の編集に興味を持ったのは、イケメン総選挙でした。水戸市付近の飲食店や美容室のイケメン店員さん 8 人をいばナビビューティースタッフが選抜し、読者投票によって 1 番を決めるという企画です。ロシアの情報誌にはほとんどない企画で、とても斬新なテーマだと思いました。

午後は、草間さんとのクライアントであるラーメン屋さんへ、広告用の写真を撮りに行きました。美味しそうな写真を撮影するのは、簡単ではないようで、時間を掛けて撮影していました。

終了後は、茨城の FM 放送、「FM ぱるるん」へ向かいました。いばナビビューティーチームでは、水戸市のお店情報等を紹介する「いばナビフライデー」

というラジオ番組を持っており、その収録のためです。パーソナリティーは拉麺部長、草間さん、大脇絢子さんの3人です。日宣メディアックスが運営する



「いばナビ」にアクセスすると分かりますが、「いばナビ拉麺部」というブログがあり、茨城県内の人気ラーメン店の記事が掲載されています。

その記事を書いているのが拉麺部長です。私もいばナビビューティーの話をする予定でしたが、日本語の会話に自信がなく、結局、何も話さず、収録の様子を見学するだけで終わりました。

ロシアでは、インターンシップの制度が、日本ほど一般的でなく、日本の会社を知るとても良い機会でした。2日間お世話になった草間さんと澤山さんにはとても感謝しております。スパシーバ！



(ロシア・イルクーツク言語大学出身)